

教科目名 保健・体育 (Health & Physical Education)

学科名・学年 : 全学科 2 年

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 43.5 時間)

担当教員 : 大庭恵一, 川内谷一志, 田中和彦 (全クラス担当)

| 授業の概要 | | | |
|---|---|---|------------------|
| <p>スポーツテスト (運動能力テスト, 体力診断テスト) を実施して, 個人の体力を把握させる。 スポーツテストに含まれる運動技能を向上させ, 個人技能 (陸上競技, 水泳), 対人的技能 (ソフトテニス, バドミントン, 柔道), 集団的技能 (バレーボール, サッカー, バスケットボール) における全体技能 (ゲーム) が遂行可能となるように行う。保健学習では, 「現代社会と健康」「社会生活と健康」に重点をおいて学習する。</p> | | | |
| 達成目標と評価方法 | | | 大分高専目標 (A1) (B1) |
| (1) 基礎体力の維持・向上を目標とする。(ゲームと記録) (2) 体育実技で行った運動種目のルールを正確に理解し, ゲームを楽しむことができるようにする。(ゲーム) (3) 保健学習で行った内容を正確に理解する。(定期試験) | | | |
| 回 | 授 業 項 目 | 内 容 | 理解度の自己点検 |
| 1-3 | 1. バレーボール | ○個人技能の習得, 班編成, ルール, 審判法の確認。 | 【理解の度合い】 |
| 4, 5 | 2. スポーツテスト | ○ {運動能力テスト (4 種目), 体力診断テスト (4 種目)} を正確に測定する。 | |
| 6-9 | 3-1. ソフトボール (男子) 3-2. ソフトテニス (女子) | ○ゲームによる技能の向上と審判法の習得。 ○ストローク, サーブなどの個人技能の習得。 | |
| 10, 11 | 4. 水泳 | ○クロール, 平泳ぎの習得。 | |
| 12, 13 | 5. 保健 | ○「喫煙, 飲酒および薬物乱用と健康」に重点をおいて学習する。 | |
| 14 | 前期期末試験 | ○筆記による保健のテスト行う。 | 【試験の点数】 点 |
| | 前期期末試験の解答と解説 | ○保健のテストの解答と解説を行う。 | |
| 15-17 | 6. 柔道 | ○個人技能の習得, 約束練習や簡易試合を行い, ルール, 審判法の習得。 | 【理解の度合い】 |
| 18, 19 | 7. 陸上競技 | ○ハードルの基本技能を習得し, 50m ハードルのタイムを測定する。女子はハードルを低くして指導する。 | |
| 20-22 | 8-1. サッカー (男子) 8-2. バドミントン (女子) | ○個人技能の習得後, ゲームによるルール・審判法の習得。 ○個人技能の習得後, ダブルスのゲームを学習する。 | |
| 23-25 | 9. バスケットボール | ○個人技能の習得。ゲームによるルール・審判法の習得。 | |
| 26, 27 | 10. 保健 | ○「交通事故およびその予防策」「集団の健康」について学習する。 | |
| 28 | 後期期末試験 | ○筆記による保健のテスト行う。 | 【試験の点数】 点 |
| | 後期期末試験の解答と解説 | ○保健のテストの解答と解説を行う。 | |
| 履修上の注意 | 授業は時間厳守とする。 | | 【総合達成度】 |
| 教科書 | 高石昌弘, 小沢治夫ほか, 「現代保健体育」, 大修館書店。 | | |
| 参考図書 | 秋山兼範, 麻生紘二ほか, 「最新スポーツルール」, 大修館書店。 | | |
| 自学上の注意 | 授業で行うスポーツのルールを調べておく。 | | |
| 関連科目 | 保健・体育 (1 年, 3 年) | | |
| 総合評価 | 達成目標の(1)から(3)について実技と試験で評価する。 総合評価 = $0.8 \times (\text{授業で行った各種目の実技点の平均}) + 0.2 \times (\text{保健テスト点})$ 総合評価は, 前期評価と後期評価を平均して評価する。授業態度により, 評価点からその 20% を上限として減点を行う。 総合評価 60 点以上を合格とする。再試験は, 実施しない。 | | 【総合評価】 点 |